

ホクコーバリダシン®液剤5

■種類名：バリダマイシン液剤
 ■有効成分：バリダマイシン-----5.0%
 ■PRTR法指定物質：ホリキアジフェンアルキルエーテル [第1種] -----3.0%

■登録番号：第17387号
 ■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)
 ■登録初年：1989.09.27
 ■性状：緑色澄明液体
 ■有効年限：5年
 ■包装：500ml×20本

【特長】

- 紋枯病と疑似紋枯症のほか、リゾクトニア菌による病害に効果を示す。
- 稲だけでなく、果樹、野菜など幅広い適用がある。
- 近年、細菌性病害に対して効果のあることが明らかとなっており、作用性の異なる細菌病防除剤として注目されている。

【適用内容】(2014年10月末日現在)

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	バリダマイシンを含む農薬の総使用回数
もも	せん孔細菌病	500	200~700 ℓ/10a	収穫7日前まで	4回以内	散布	4回以内
かんきつ	かいよう病						
稲	紋枯病 疑似紋枯症 (赤色菌核病菌) (褐色菌核病菌) (褐色紋枯病菌) もみ枯細菌病	1000	60~150 ℓ/10a	収穫14日前まで	5回以内	散布	6回以内 (育苗箱灌注は 1回以内、 本田では 5回以内)
稲 (箱育苗)	苗木枯病 (白絹病菌) (リゾクトニア菌)		育苗箱 (30x60x3 cm、使用 土壌約5 ℓ)1箱当 り希釈液 500ml	は種時~ 発病初期	1回		
ばれいしょ	青枯病、軟腐病	500	100~300 ℓ/10a	収穫3日前まで	6回以内	散布	7回以内 (種いもへの 処理は 1回以内、 植付後は 6回以内)
	黒あざ病	200	— 種いも 100kg当 り2.5~3 ℓ	貯蔵前 又は 植付前	1回	瞬時~10分間 種いも浸漬 種いも散布	
きゅうり	苗木枯病(リゾクトニア菌)	800	3ℓ/m ²	は種直後		灌注	1回
キャベツ	株腐病、黒腐病 軟腐病			収穫7日前まで	5回以内	散布	5回以内
はくさい	軟腐病、黒斑細菌病	500	100~300 ℓ/10a	収穫3日前まで	3回以内		
なす	青枯病			収穫前日まで	8回以内		8回以内
いちご	芽枯病 角斑細菌病	1000		収穫開始 14日前まで	3回以内		3回以内
すもも	黒斑病	500	200~700 ℓ/10a	収穫14日前まで	4回以内	散布	4回以内
だいこん	軟腐病			収穫21日前まで			
たまねぎ	腐敗病、軟腐病	800	100~300 ℓ/10a	収穫3日前まで	5回以内	散布	5回以内
レタス 非結球レタス	すそ枯病、腐敗病 軟腐病			収穫7日前まで	3回以内		3回以内
しょうが	紋枯病			収穫14日前まで	4回以内		4回以内
みつば	立枯病			育苗期	1回		4回以内 (育苗期は1回 以内)
にら	葉腐病			移植後但し収 穫21日前まで	3回以内		3回以内
にんにく	春腐病			刈揃え前まで			3回以内
				収穫7日前まで	5回以内		5回以内

作物名	適用病害名	希釈 倍数 (倍)	使用 液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	パリダマイシン を含む農薬の 総使用回数
ふき	白絹病	800	3 ㍓/m ²	収穫 7 日前まで	5 回以内	灌注	5 回以内 (種茎浸漬は 1 回以内)
			—	植付時	1 回	30 分間 種茎浸漬	
てんさい	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	400	3~6 ㍓ /m ²	育苗中期	1 回	灌注	1 回
だいず えだまめ	葉焼病	500	100~300 ㍓/10a	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
ねぎ	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	400	6 ㍓/m ²	は種時	1 回	灌注	2 回以内 (は種時の灌 注は 1 回以 内、散布及び 株元散布は合 計 1 回以内)
	軟腐病	500	100~300 ㍓/10a	収穫 14 日前まで		散布	
	白絹病					株元散布	
西洋芝 (ベントグラス)	葉腐病 (ブラウンパッチ)	1000	1 ㍓/m ²	発病初期	8 回以内	散布	8 回以内
日本芝	葉腐病 (ラージパッチ)	500	0.5~1 ㍓ /m ²				
はぼたん	黒腐病	800	100~300 ㍓/10a				
稲	紋枯病	300	25 ㍓/10a	収穫 14 日前まで	5 回以内		6 回以内 (育苗箱灌注 は 1 回以内、 本田では 5 回以内)

【効果・薬害等の注意】

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- ボルドー液との混用は避けること。
- 稲の苗立枯病に使用する場合、白絹病菌、リゾクトニア菌による苗立枯病には有効であるが、その他の菌による苗立枯病には効果が劣るので注意すること。
- なす、ばれいしょの青枯病に使用する場合、本病の多発する圃場では、登録のある土壌くん蒸剤等との併用処理をすること。
- ばれいしょの軟腐病に対しては効果が劣る場合があるので、他剤と輪番使用をするとより有効である。
- かんきつのかいよう病に対しては効果がやや劣る場合があるので、他剤と輪番使用をするとより有効である。
- 本剤をレタス、非結球レタスに使用する場合、すそ枯病の防除を主体とし、多発生の腐敗病には効果が劣ることがあるので注意すること。
- だいこんの軟腐病が多発するような条件では本剤はやや効果が劣る場合があるので、なるべく早めの散布をし、他剤との輪番使用をするとより有効である。
- ばれいしょの種いもに使用する場合は下記の注意を守ること。
 - ◆ 切断した種いもを処理する場合、切断面が乾いた後に行うこと。
 - ◆ 種いも散布の場合は、種いもを床などに拡げ、全体が均一にぬれるよう散布すること。
 - ◆ 処理した種いもはよく風乾してから植付けること。
- ふきに使用する場合は、種茎浸漬処理と植付後の灌注を合わせて使用すること。
- 本剤を水田の水稻に対して希釈倍数 300 倍で散布する場合は、所定量を均一に散布できる乗用型の速度連動式地上液剤少量散布装置を使用すること。
- トマトには薬害を生ずるおそれがあるので、かからないように注意して散布すること。
- きく（秀芳の力等）には薬害を生ずるおそれがあるので、かからないように注意して散布すること。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめ使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗すること。
- ❖ 使用の際は不浸透性手袋などを着用すること。
- ❖ 公園等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域内に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
- ❖ 本剤で処理した種いもは食料や動物飼料として用いないこと。
- ❖ 保管：直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密栓して保管すること。